

I L C 誘致及び国際科学技術研究圏域調査特別委員会調査報告書

平成30年2月15日

平成25年8月23日、I L C 立地評価会議により、岩手県から宮城県にまたがる北上高地が、国際リニアコライダー（I L C）の国内候補地として選定されました。

I L C の国内誘致が実現すれば、経済効果並びに I L C 建設や関連企業の立地による約25万人の雇用効果が期待できると言われ、奥州市議会としても、地域の活性化を目指すべく、I L C 誘致に向けた活動方策並びに国際科学技術研究圏域の構築に向けた調査・検討を行うことを目的に、平成26年6月19日に当特別委員会を設置しました。

当特別委員会では、まず I L C に対する委員の理解を深めることから始め、同年9月には、加速器トンネル候補地の北端から衝突点候補地付近までの現地調査を行い、将来のまちづくりについての調査・検討が急務であると実感し、この地の自然を生かしながら、将来の当市、ひいては東北地方を含めた広範囲な国際科学都市の誕生のための活動を推進していく必要があるとの思いを強く抱きました。

同年12月には、市長等の出席を求め、I L C 誘致に係る奥州市のまちづくり計画及び I L C 誘致に係る関係機関との連携について調査し、その後も4度にわたり、市長等より「奥州市 I L C まちづくりビジョン」の策定経過や取組状況について調査を続けてきました。

「奥州市 I L C まちづくりビジョン」は、I L C と共生できるような夢と希望にあふれたまちづくりの実現に向けて取りまとめたものであり、ビジョンの位置づけ、推進体制のほか、I L C の概要と可能性、目指すべきまちづくりの将来像、魅力ある奥州となるための行動指針などの主要項目について説明を受けるとともに、茨城県つくば市の「高エネルギー加速器研究機構」、千葉県柏市の「柏の葉アーバンデザインセンター」及び「柏の葉スマートシティミュージアム」の視察を行い、現地の施設見学や自治体における取組みを目の当たりにしてきました。

I L C 誘致に向けて新しい都市開発の構想が求められている当市にとって、参考となる事例であり、広範囲な国際科学都市の誕生のための活動を推進していく必要性を強く感じました。

奥州市国際交流協会職員の出席による地域の国際化等についての調査や有識者の講演を聴講したり、講演会に参加して情勢の変化に敏感に対応できるような活動もしてきました。

平成27年12月には、いわて I L C 加速器科学推進会議の故亀卦川富夫代表幹事から話をいただき、I L C 誘致に係る最近の情勢、当市議会に対する要望等について調査し、平成28年9月には、岩手県政策地域部科学 I L C 推進室長の佐々木淳氏を招き、I L C 建設計画に向けた県の戦略について講演をいただいています。また、平成29年9月には、岩手県議会議員郷右近浩氏と菅野博典氏より、県議会議員有志で実施された、スイスのセルン研究所、ドイツのデイズ研究所等の視察の状況を講演していただきました。

平成28年12月には、岩手県国際リニアコライダー推進協議会などが主催するシンポジウムに参加したほか、平成29年11月には、当市と奥州市 I L C 推進連絡協議会が主催する産業セミナーに参加し、地域企業の I L C や関連産業への参入促進について聴講しました。誘致に向けたわたくしたち一人ひとりの行動が今後重要になると感じた次第です。

このように、これまでに幹事会19回、特別委員会21回を開催して I L C の理解とまちづくりとの関係を調査してきました。

政府による I L C 誘致の決定が、今年、夏にもされる見通しとのことであり、今後、より具体的な行動をしていかななくてはなりません。

当特別委員会としては、これまでの調査等を踏まえ、次の四点を当局に提案してまとめとすることにしました。

まず一点は、今後、ますますの具体的な取組みがなされることが必要です。特に、まちづくりビジョンに掲げた事業実施が必要な時期にあることから、具体的事業推進が必要となります。

次、二点は、市民の活動から機運を盛り上げることも重要です。特に、生活圏として取り組むためには、食の問題が大きいものと思われます。現地視察やアンケートなどを通し、体制づくりに取り組むよう提言します。

三点には、今後の方向性を正確に認識しながら、当面の課題を情報交換すると共に、市民に共有が得られる具体性を示す時期ととらえるべきです。

四点目には、北上高地に誘致させることに全力を挙げると同時に、本事業は長期にわたる計画になることから、情報把握に努め、県、関係機関等と十分連携を図り事業推進を図ることが重要になると思います。

このほか、国際感覚を養うことや、国際的なことに関して知識を身に着けることなどが必要ではないかという意見もありましたことを申し述べます。

具体的に市民をはじめとして I L C の誘致、国際科学技術研究圏域の構築について理解していただき、積極的な行動を行っていくことが、重要になってきています。そのことを市民に向けて語れるような状況を作っていくことが必要であるとも感じています。

なお、議員各位の理解度を高め、それぞれの活動につなげるきっかけ作りのため、当特別委員会も一定の役割を果たしたものと判断されることから、調査を終了し、今後は個々の議員活動として積極的に関わっていくことを確認しました。

引き続き当局から議会に対して適時適切な説明及び情報提供がなされることを期待し、当特別委員会の調査報告とします。

